

令和4年度の学校評価

本年度の重点目標	<p>ア 心身ともに健康で安全に学ぶことのできる学校づくりを進める。</p> <p>イ 本年度からの新教育課程及びICT教育の円滑な実施を進める。</p> <p>ウ 地域から愛される学校づくりのため、諸活動に新たな価値を付加するとともに情報発信を積極的に行う。</p> <p>エ 情報活用コースの一層の活性化を図るため、諸活動の検討と改善を行う。</p> <p>オ 校務の効率化を図るため、様々な場面における連絡や資料配付の方法の改善を行う。</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
式典・集会 行事・防災 (総務部)	式典・集会の安全で円滑な運営を行う。	学年等と連携し、状況に応じた式典・集会の方法を立案する。どの方法でも生徒が規律正しく行動できるよう指導する。	学年・分掌と連携し、生徒が状況に応じて迅速かつ安全に行動できるように留意し立案・運営を行う。
	危機管理や防災についての意識の向上を図る。	避難訓練・地震防災訓練を通じて緊急時における集団行動のあり方を生徒に認識させ、緊急時に備える。	日頃から生徒に避難経路や注意事項を周知させるとともに緊急時における自らの役割を理解し適切な行動をとれるよう促す。
授業規律 図書館活動 (教務部)	授業開始時に授業環境を整える。	チャイムまでに授業の準備を完了し、あいさつ後、授業を受ける態勢になるよう指導する。	各教科担任が授業指導留意事項の徹底を図り、生徒の指導にあたる。履修状況報告書を活用する。
	図書館を利用した企画を行い、図書館の来館者を増やし、貸し出し冊数の増加を図る。	掲示・配布物などを通じて、図書館の存在を生徒に認識させる。生徒が図書館へ気軽に足を運べるような雰囲気作りを図る。企画、展示などに情報活用コース・図書委員の活用を図る。	各分掌、各学年団との連携を図る。
	ICT教育の円滑な実施に向けた環境整備を進める。	教科・分掌に横断的に授業改善担当などと連携をとり検討をおこなう。	全校において今年度中に導入されるタブレット端末の活用の実践に取り組む。
遅刻数の減少 交通安全指導 ルール遵守の指導 (生徒指導部)	遅刻指数1.2未満にする。	8時35分遅刻の指導を実施し、生徒がより時間を意識して行動できるようにする。	時間を守ることの大切さを身に付けた生徒を育てるために、各学年との連携を図る。
	登下校時の交通マナーの向上及び交通事故を防止する。	時間に余裕を持って登校するよう促していく。様々な教育活動を通じて、交通安全に関する指導を実施する。	朝礼時の講話や学年集会等で、交通法規を遵守し命を守ることの大切さを啓発していく。
	規則を遵守する規範意識を養う。	校則や身だしなみ指導や携帯用通信機器のルールをきちんと説明し、教員が生徒に様々な場面で指導していく。	生徒及び教員に規則の周知を図り、全教員で指導する体制をつくる。
キャリア教育 (進路指導部)	学習会の充実	1年は早朝スモールテストを行い基礎学力の定着を図る。2年はスモールテストに加えて講義型学習会を、3年は早朝・業後に講義型学習会を行い、大学受験に対応した応用的な学力の充実を目指す。	各学年団と連携し、進路目標に応じたきめ細やかな指導を行う。
	進学指導の充実	難化した大学入試に対応するため、総合型入試・学校推薦型入試・一般入試を活用して進路実現を図る。	指定校を公開することで公正公平な進路選択の機会を提供する。
	就職指導の充実	1年から職場見学を行い、進路選択の材料を与える。また、卒業生や企業採用担当者の講話を聞く時間を設けることで、多角的な視点を持ち、将来を見据えた学校生活を送ることができるようにする。	各学年団と連携し、指導に当たる。
	進路情報の発信の充実	生徒昇降口・進路指導室前の掲示板やICTを活用し、生徒へ最新の進路情報を提供する。	最新の良質な情報を提供する。
保健管理 保健指導 環境美化 (保健部)	感染予防に関する指導を行い、予防可能な感染を防ぐ。	登校前の検温を徹底し、健康観察記録カードへ体温を記入させる。健康観察表を活用し担任による健康観察結果から生徒の症状を把握する。感染症予防に関する指導を行う。保健室利用についてのルールを守らせることにより感染拡大を防ぐ。	健康観察記録カードへ確実に記入させる。感染予防に関する指導内容を教職員に提示し、状況に応じて適宜生徒に指導してもらう。待機室を使用し、複数の生徒が同じ空間にいる時間を最小限にする。
	感染予防に留意しながら環境美化を保つ。	清掃箇所に応じて人数配分や方法を考慮し生徒に指示をする。清掃時、不特定多数が触れる箇所の消毒を行う。ゴミは持ち帰らせ、ゴミ箱は設置しない。	清掃時、密にならないようにする。清掃後は手洗いをさせる。ゴミは感染源となるため各自で持ち帰るよう指導する。
教科指導力の向上 (研修・教育工学部)	情報機器を活用した授業の充実	全教員が所持しているタブレット及びプロジェクトを活用した授業を参観・研修・個別実践を行うように努める。	情報機器した授業を行うために、各自率先して研鑽を行うこと。
	ICT教育実施に向けた環境整備	本年度より導入するICTを活用した様々なサービスを安定して運用するため各種アカウントの管理・設定の手法を考える。また、ネットワーク構成・ユーザ管理、情報漏洩防止策などについて調査研究を行う。	昨年度試験的に導入した各種オンライン授業支援サービスの実施結果を検証して、効果的な手法を考え実行する。また、昨年度情報活用コースで試験的に運用してきたタブレットPCの活用手法を検証し、今後の運用に活かす。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
情報漏洩の防止 (研修・教育工学部)	校内ネットワークの用途別活用方法の周知徹底	授業・会議で使う機会・環境を切り分け、漏洩の可能性を削減する。	タブレットは授業のみで使うことが理想だが、現実的には会議で使うこともあるため、最大限の注意を払う。
学校行事・部活動 (特別活動部)	生徒の人的成長に繋がる学校行事の企画と運営	生徒会役員が主体となり、行事を円滑に進められるように支援する。意見箱の設置等を実施し、生徒の意見・要望を可能な限り取り入れ、行事の見直しや改善を行う。	生徒会役員が主体となり、行事を円滑に進められるように助言する。
	部活動の活性化	新1年生に対して、部活動への積極的な参加を促す。各部の顧問の意見・要望を聞き、部活動を行う環境を整える。	部活動への参加が生徒・教員の過剰な負担にならないようにする。要望には優先順位をつけ、できるだけ早く対応をする。
生徒の心の安定 (教員相談部)	生徒の悩み等の情報把握と対応	心のアンケート、面談を活用し、生徒の悩みなどの情報を把握する。相談連絡会を通じて対応策を検討する。	生徒の悩み等を把握したら、慎重に情報を収集し、解決方法を検討する。その際、相談連絡会を活用しつつ、関係者以外にその情報が漏れないよう注意する。
	心の不安定な生徒への対応とSCとの連携	SCの周知をはかる。不登校の兆しがある生徒や心の不安定な生徒、問題行動が見られる生徒に対して、SCのカウンセリングを勧め、生活改善や心の安定を図る。	SCの有用性を教員・生徒ともに理解してもらおう。SCの意見を参考にして、特別な支援が必要な場合も含めて対応を考慮する。担当教員には状況や対応策の周知を図る。
	特別な支援を必要とする生徒の状況把握と対応の検討	本人や保護者からの申し出に加え、日常生活の様子に注意し、学習や生活に支障がないよう、合理的な配慮を図る。	生来的要因や病的要因を持つこともふまえ、担当教員が情報を共有し、連携して対応する。その際、生徒本人および保護者の心情に配慮する。
授業等、学校生活への取組 (第1学年)	基本的な生活習慣を確立する。	・規則正しい生活習慣を身につけるよう指導する。 ・時間を守る。ルールを守る。挨拶をする。身だしなみを正しくさせる。	・体調管理、感染症予防に注意し、欠席や遅刻をなるべくしないように指導する。 ・学校生活のあらゆる場面で声をかけ、指導を展開する。
	学習環境を整え、毎日の授業に集中して取り組む。	・教室の環境や授業に臨む姿勢を整えさせ、毎日の授業を大切にさせる。 ・家庭での学習習慣をつけさせる。 ・課題や提出物を期限内に提出することを守らせる。 ・学びの基礎診断を活用する。	・授業開始と終わりの号令をしっかりと行うように指導し、メリハリをつけさせる。 ・日々の清掃をきちんと行い、学習に集中できる環境を整える。 ・あらゆる場面で提出物の期限や締め切りを守るように指導を展開する。 ・スマホやタブレット端末等情報機器を有効活用して指導を展開する。
	安城南高生としての自覚を持つ	・高校生になった自覚を持たせる。 ・部活動や学校行事に積極的に取り組ませる。 ・学校生活に目標を持たせる。	・学校行事や部活動などに積極的に取り組み、周囲と良い人間関係を構築できるように指導する。
授業等、学校生活への取組 (第2学年)	生活習慣・学習習慣を確立する。	・挨拶をする、時間を守る、身だしなみを常に整えるなどの生活習慣を確立させ、さらに家庭での学習習慣も確立させ、下級生の見本となる学校生活を送らせる。	・体調管理、感染症予防に注意し、欠席や遅刻をなるべくしないように指導する。 ・身だしなみを整えるなど学校生活のあらゆる場面で声をかけ、下級生の手本となるように指導を展開する。
	学習環境を整え、毎日の授業を大切に、自ら考え行動する。	・毎日の授業を大切にさせる。 ・授業に臨む姿勢・環境を整えさせる。 ・課題や提出物を期限内に提出することを守らせる。 ・進路に対して真剣に考え、実現する努力をさせる。 ・教師から指示されたことだけでなくさまざまな場面で自ら考えて行動できるように力をつけさせる。	・授業開始と終りの号令をしっかりと行うように指導し、メリハリをつけさせる。 ・あらゆる場面で提出物の期限や締め切りを守るように指導を展開する。 ・進路について1年生の時よりも主体的に考えさせる時間を増やす。
	安城南高校の中心として自覚をもって行動する。	・上級生になった自覚を持たせる。 ・部活動や学校行事では中心となることを自覚させ、行動させる。 ・学校生活に目標を持たせる。	・安城南高校の中心として、学校行事や部活動に積極的に参加するだけでなく、他者と協力して行事などの運営をさせる。
授業等、学校生活への取組 (第3学年)	落ち着いた学校生活を送ることのできる環境を整え、生徒がそれぞれの進路実現を目指す。	40周年を意識しつつ、正しく制服を着用することの意義を生徒に理解させ、全職員で指導する。	学校生活の様々な場面で、生徒の自覚を促す声掛けと指導を行う。
		学習環境を整えるため、教室の環境整備を行う。	日頃の清掃活動にしっかりと取り組み、自ら学習環境を整えさせる。
		授業を大切にすることが進路実現に直結することを理解させ、授業規律の向上と学力の増進を図る。	生徒情報を学年会等で共有し、課題提出や始業時チャイム着座の徹底を学年団全員で指導する。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		・在校時間等の状況記録結果を活用し、時間外在校時間の上限(1か月45時間、1年360時間)が順守できるよう業務改善・分担の見直し等を行う。 ・面談期間や心のアンケートを活用し、いじめや悩みの早期発見に努め、全教員の連携によりその解決を図る。	